



今月の記事

認知症ケアの取り組み

先月からの愛の園

支える人々Part II

リレーエッセイ

8～9月の予定



「私が取り組む認知症ケア」-研修での学びから-

ケアワーカー 岩本守史

ケアワーカー 木村しずか

人を穏やかにさせる心理的療法ということでアニマルセラピーや音楽療法、アパシーケアの成果を勉強してきました。これらは専門的な知識が必要であり、設備や技術がなければ成立しないので、今回は自宅で介護されている方でもできるものを紹介したいと思います。

人には別名安静ホルモンとも言われる「オキシトシン」というホルモンがあります。このホルモンが分泌されることにより、人の心に安心や平穏をもたらすとされています。

ではどうやって分泌されるのかと言うと人の身体に優しく触れること、それだけです。2、3分でもいいので手を握って話しかけたり、背中をさすってみたりして下さい。小さなよい変化が見られるかもしれません。

人の心は難しく、少しでも理解できるよう様々な方法や知識を学びたいと思います。

『高齢者を知る～認知障害を持つ人の幸せについていくつかの道から考える～』という講義を受講しました。

高齢者をケアすることは「老い」を知ることであり、老いをごく自然なこと、避けることのできないこととの認識を持てるかが、高齢者の幸せを考えること的前提であると話されていました。

ケアされる側が老いを受容できるか、今の自分自身を受容し、納得できるかが大事なことです。高齢者がどこで生活しようとするのが幸せを感じられるかどうかはその方の心の中の問題であるということでした。

その方らしく、満足できる生活になるべく近づけるよう、ケアする側の意識の向上が求められていると感じました。私自身も入居者一人一人の心に寄り添ったケアが出来るよう日々努力していかなければいけないと思いました。



涼感を感じさせるアサガオ。同じネットにゴーヤーも実り始めました

先月からの愛の園 あんなこと、こんなこと



生馬小学校児童から自分たちが種から育てたケイトウ、サルビア、マリーゴールド、トレニアの苗200本をいただきました。開花を楽しみに育てています。 7/28



麻雀が好きなお二人。真剣なまなざしで職員と勝負しています。牌と台はユニット職員が自宅から持ってきてくれました。またいつでも誘ってください。 7/30



今年の愛の園夏祭りは、かき氷、綿菓子、パフェに加えて、ヨーヨーすくい、お菓子掴み取り等の催し物が開催され、皆さん大いに楽しんでおられました。 8/2



ご家族の方々や職員と一緒に祭りを楽しみました。入居者の皆さんも、浴衣や半被に着替えて夏らしい装いでお祭り気分を盛り上げました。 8/2



支える人々 Part II 「愛の園ボランティアで想う」 宮本 操 さん



初代園長の深田伊都子霊母

初代園長である深田霊母様は、当初より私たち職員に対してよくボランティアという言葉を用いられていました。

当時、近畿圏の各教会からボランティア活動で学生や婦人会の方々が大勢来られましたし、雑巾やオムツ等も送られて来ました。隣接の深和ホームの方々も多数ボランティアに参加してくださいました。

そんな中、入居者の方々に楽しんでもらう方法をと考え、食堂にカウンターを作りました。入居者と全職員が一体となり、焼き芋、おしるこ、みたらし団子等、メニューは入居者と介護職員が、準備は調理室が担当して好評を得ました。同時に喫茶コーナーも始まり、深和ホームの方々や一般の方々の協力も得て、習字、歌、

編み物、料理、御詠歌のボランティアサークルも誕生しました。特に喫茶は水分補給にも重要で、週1~2回から3回へと発展しました。

また、月に1度の勉強会を開催しました。その際の講師は愛の園の職員が行い、時には有名講師を招き、全職員や他施設の職員が参加する密度の濃い勉強会を開催しました。深田園長の夢であったボランティアの養成が実を結びました。

「世に生かされている限り、ボランティアは義務であり当たり前のこと」と説かれた深田霊母様の努力の賜物だと思います。

私自身も退職後にボランティアの一員として参加できたことを嬉しく思うと共に、素晴らしい同士と共に活動出来ることに感謝しております。

リレーエッセイ(36) 「娘のランドセル」 生活相談員 池田貴之

幼稚園の年長である娘のクラスにいくつかのメーカーからランドセルのカタログが届き、その中で気になったメーカーの取扱店が和歌山市内にあり、娘と見て来ました。

まずは色を決めようと思ったのですが、例えばピンク色だけでもビビッドピンク、マカロンピンク、ローズピンク、パールピンクとこれでも一部です。その他の色でもパステルパープル、

カーマインレッド、ミルキーブラウン等々・・・。

ランドセルにも花柄の刺繍があったり、キラキラしたチャームが取り付けられていたりするので娘は機能性等には関係なく、それが気に入り、またすぐに目移りするのでその場で決めることはできず帰ってきました。

私の小学生の頃と比べるとはおかしいかもしれませんが、男の子は黒色、女の子は赤いランドセルと決まっており、選択肢はなく、地元のお店で買ってもらった記憶があります。

現在は黒色、赤色以外にも種類があるというのは知っていましたが、色だけではなく、女の子の目を惹くものがこんなにもたくさんあるとは思いませんでした。私としては6年間飽きずに使ってもらえるものを選んでほしいと思うのですが、まだまだ時間がかかりそうです。

今回は管理栄養士の湯川知美さんをお願いします。



今ではランドセルの色にもこんなにバリエーションがあり、選ぶ方も迷ってしまいます。

「キリストの愛を以って
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

Email ainosono@shinai.or.jp

ホームページもご覧ください。
バックナンバーを掲載しています

<http://shinai.or.jp>

8~9月の愛の園

- 11(火) マリア会
- 16(日) 礼拝(み言葉の礼拝)
- 18(火) ひまわり会
- 19(水) 手芸サークル
- 20(木) やまびこ会 ヨガ教室
- 21(金) 社協ボランティア来園
- 23(日) 礼拝(聖餐式)
- 25(火) マリア会
- 26(水) 歯科診療
- 27(木) やまびこ会 ヨガ教室
- 30(日) 礼拝(み言葉の礼拝)

- 3(木) やまびこ会 ヨガ教室
- 6(日) 日曜礼拝(み言葉の礼拝)
ヨネクラ玩具来園
- 8(火) マリア会
- 10(木) やまびこ会 ヨガ教室

編集者から

認知症ケアについての研修会で「喜心、老心、大心」と言う言葉を知りました。曹洞宗の開祖道元禅師が修行僧の食事係の心得として示されたものだそうです。喜心は人の喜びを自分の喜びとする奉仕の心。自分の喜びが他人にも伝播し周囲の人達に喜びの輪が広がります。老心は親が子を思うように他の人を思いやる心。充分すぎるほど充分に老婆心と言われるほど細かいところまで気配りをする思いやりの心です。大心は字のとおり大きな心。もの事をありのままに見つめるこだわりのない公平な心です。

この喜心、老心、大心は人のために何かをする際に心がけるべき心得として普遍的に通用するものです。職場でも、また普段の生活にあってもぜひ大切にしていきたいものです。(A)